26年秋期 訳出復習 712〜722

712 **＊ the way SV** 1)物事は期待したようにはいかない 注：10月27日追記 右記の go with the way we expect 10月9/10日に再度聞いた時には、 with が聴こえませんでした。脳みそ が勝手に補正して聴いていたものと 推察します。よく聴き返すとかすかに withが聞こえます。	1)Things don't always go **the way** we expect.　[GENIUS参照] ●「物事は期待した**ように**はいかない」または「〜期待した方法ではいかない」 だからthe way SVは副詞節です。だから前置詞inを挿入して： ＊Things don't always go **in the way** we expect.がむしろ文法的に正解です。 しかし、"the way SV"は慣用的に前置詞なしで副詞節として使われるので、inなし のthe way SVで副詞節になります。 ●ところが、今週のリピート教材の英語では： ＊Things don't always go with the way expect. となっていました。 「go with 名詞」の場合は「〜と合う：The tie goes with your shirt.」とか「賛 成する： I'll go with your idea.」のように使うので、今回の場合、前置詞を入れる とするとwithではなくinが良いと覚えておきましょう。 ●the way SVは以下のように言い換えられます ＊Things don't always go as you expect.
713 **＊ wantの世界** 1)彼はあなたに折り返し電話して 欲しい(そうだ) 2)私はその部屋を掃除して欲しい 3)私はその本を返して欲しい 4)彼は彼女に来てもらいたくない 5)壁はこの色にお願いします {GENIUS参照]	●「欲しい」と言って「させる」のがwantです。つまりwantも5文型SVOCで使え るのだ。ではwantの場合、SVOCのCに何がくるのでしょうか？ 1)[SVO to do] He wants you to call him back. 2)[SVO (to be) done] I want the room cleaned. 3)[SVO 副詞] I want the book back. 4)[SVO doing] He doesn't want her coming. (通常は否定文で使う) 5)I want the wall this color.　??? [名詞?? → SVOC? SVOO? SVOM?} ●通常5文型 SVOCのCは「形容詞 (相当語句)」がきます。 「名動名形 (及び形容詞相当語句)」のはずが、5)の英文では「名動名名」とまるで 4文型のgiveのように動詞の後ろにthe wallとthe colorと名詞が２つ並んでいるよ うに見えます。 ＊I want the wall this color. this colorは名詞ではないのか？ あるいはThings don't always go the way we expect. (下段の712参照)と同じような用法なのか？ ヒントは動詞のpaintにあります。質問があれば次のクラスで訊いてください。
714 **＊使役動詞以外の「させる動詞」** 1)私は日本が我々のために頑張ってくれ ると期待している 2)彼は同盟国に対し、同盟軍に参加する ように要請した 3)誰が(誰により)石油がホルムズ海峡 を通過させることになるのだろう	●「SVO ＋ to do」パターン 1)I expect Japan to step up for us. 2)He calls on allies to join his coalition. 3)Who will get oil to flow in the Strait of Hormuz? ●使役動詞・御三家 make, have, let以外に「人(or物事)に〜させる」パターンを とる動詞をこれから意識的に増やしていきましょう！ 「期待してさせる、頼んでさせる、強制的にさせる、懇願してさせる」いっぱいあ りそうです。
2026年秋期 715 **＊try to do対try doing** 1)彼女にメールしようとした(が...) 2)彼女にメールしてみた(が...)	●try＋不定詞： 過去形のtried to doは「しようとした(ができなかった)」を含意する 1)I tried to email her, but I couldn't. ●try＋動名詞： 過去形のtried doingは「試しにしてみた」(成功を目指して取り組む) 2)I tried emailing her, but she didn't reply. ●ニュアンスの差 1)I tried to email her, but I couldn't. try＋不定詞は「メールを送ろうと努力する」と言うニュアンスなので、but I couldn't.と続くのが自然らしい。 2)I tried emailing her, but she didn't reply. try＋動名詞は「メールを送るという手段を試してみた」と言うニュアンスなので 「試しに送ってみた」が返事はなかった but she didn't reply.と言う文が続くのが 自然らしい。 ●Why don't you try asking them directly about it? さて、今回の課題文のニュアンスはどうなる？ 来週のクラスで最近仕入れた情報を お伝えします。

26年秋期 訳出復習 712〜722

716 ＊warn 1)その俳優は民主主義の後退を警告した 2)この仕事を手伝ってくれますか？ 右のC/F/G) の英作の解答は受講生専用ページに書いておきます。参照ください	**1)warnの用法** A) The actor warned democratic decline. B) The actor warned of democratic decline. ＊「後退を警告した」だから、warnを他動詞として使って A)The actor warned democratic decline. とした方が良さそうだけど、どうもダメなようです。 GENIUSで見てみると、warnの他動詞用法は「人が人に(危険などを避けるように)警告する」とあります。つまり、warnの目的語は「人」であり「物事 (危険など)」ではないようです。だから、上記のB)のようにwarnを自動詞用法にするか、あるいは： C) 3.5文型にするかです。 さて、それでは上記のB)を「3.5文型」に書き換えてみましょう。 **2)helpの用法** D) Can you help this task? E) Can you help with this task? helpもwarnと同様に、目的語は「物事」ではなく「人」でしたね。だからE)が正解です。では次に： F)上記のE)を3.5文型に言い換えてみましょう。 G)今度は5文型に言い換えてみましょう。

717 ＊wory, be worried 1)AIの今後の暴走を多いに懸念すべきだ	1) We should be very worried that AI is going to go rogue. ＊AI is going to go rogue. 「AIがそのうち暴走する」「AIがいずれ暴走する」「AIが暴走に向かっている」 「AIがまさに暴走しようとしている」 「AIがいずれ暴走することになるという現実を多いに懸念すべきだ」 2)言い換え A) We should worry a lot [very much] that AI is going to go rogue. B) We should worry a lot [very much] about AI going rogue. C) W should be very worried about AI going rogue. We should be worried a lot [very much] about AI going rogue. D) We should be worried a lot because AI is going to go 〜. ●A)B)C)　懸念すべき対象は(that以降の)AIの暴走 D)　懸念すべきだ、(because)その理由はAIの暴走であり他の理由ではない。

718 ＊SVO＋that節 1)彼は聴衆に政府の構造が近年悪化したと述べた	●4文型「あげる動詞」SVOO 今回はSVOOの最後のOに→名詞相当語句のthat節を使ってみましょう S told O that SV→SがOにthat節の内容をを言って「情報をあげる」 1)He told the audience that government structures have been degraded in recent years. ●その他の動詞 A)警察は母を安心させた、息子が無事であるという情報を与えて ＊The police reassured the mother that her son was safe. B)私は彼に保証した、最後はうまくいくと言ってあげて ＊I assured him that he would succeed in the end. C)彼は彼女を納得させた[説得した]、彼らは誠実であるという情報を与えて ＊He convinced her that they were sincere. D)その事故は彼に教えた、もっと注意しなければという経験を与えて ＊The accident taught him that he should be more careful. E)その歌は私に思い出させてくれる、私達が一緒によい時間を過ごしたことを ＊The song reminds me that we've spent a great time together.

26年秋期 訳出復習 712〜722

719 **＊品詞何待ち：3.5文型** 1)彼は聴衆に、映画に関わることが彼にとってどれほど意味を持つのか話した 話して気持ちを分かち合った	●3.5文型 SVO＋前置詞句 1)He shared with the audience how much working on film means to him. [目的語である how much SV が長いので倒置] さて、本日は今期懸案の3.5文型のSVO＋withの形をとる動詞を探っていきましょう。以下のようなお馴染みの動詞が使われます。 A) He shared his experience with the audience. B) They provided their employees with free meals. C) They supply local restaurants with fresh vegetables. D) They connected the AI agents with the cyber attack. E) They associated his name with the Meiji Restoration. F) They presented the winner with a special award. G) They furnished the room with modern furniture. H) They equipped all the classrooms with air conditioners. I) They covered the floor with plastic sheets. J) They filled the room with beautiful decorations. K) They overwhelmed him with loving kindness. L) They compared the translation with the original. M) They confronted us with difficult ethical questions. さて、どんな動詞と命名しましょうか。教室で議論しましょう。
720 **＊使役動詞以外の「させる動詞」** (714参照) 1)彼は人々に汚職に対して反対の声をあげるように促した 2)彼らはAIエージェントに顧客の問い合わせに対応するように指示を出した（prompt) 3)コーチは彼に毎日走り続けろと励ました 4)彼女は彼にその件について再考するように説得した 5)彼らは彼に考えを変えるように説得できなかった	●「促す系」促して〜させる 1)He urged people to speak out against the corruption. 2)They prompted AI agents to handle customer inquiries. 3)The coach encouraged him to keep on running every day. 4)She persuaded him to reconsider the matter. 5)They couldn't convince him to change his mind.

26年秋期 訳出復習 712〜722

721 **＊自動詞 vs 他動詞** 1)エージェントたちはサンドボックスを飛び越えた	●違和感を大切にしよう ＊Agents jumped out of the sandbox. 上記は私たちの口から自然に出てくる英文です。だって動詞がjumpだから自動詞(SVM)で表現するのが自然でしょう。ところがネイティヴはjumpを他動詞として使い： 1)Agents jumped the sandbox.　と言ったのです。 違和感満載の英文ですよね。なぜ、jumpなのに他動詞として使うのだろうか。確認するため、クラスでGENIUSを引きました。すると、自動詞用法の後ろに確かに他動詞の用法も書いてありました。 ●さて皆さん、jump out of the sandboxとjump the sandboxのニュアンスの違いをいろいろ思索し、ネイティヴはなぜ今回 jumpの他動詞用法を使ったのか考え、探ってみてください。 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ Dクラスで言及しましたが、典型的な自動詞の動詞なのに、他動詞で使われている印象的な英文に講師が巡り合ったのは、今から四半世紀も前のことでした。登山に出かけた屋久島の山小屋「淀川」に一晩泊まった秋の夜に読んだ本が： *The Green Mile* (Stephen King) でした。 何ページなのかは忘れたけれど、独房から死刑執行部屋までの通路をThe Green Mileと呼び、そこを執行日に死刑囚が歩いていく。 He walked the Green Mile. 「？」と思いました。自動詞のwalkなのにalongもdownもない。今でも覚えているほど、心に焼きついた一文でした。なんかよくわからないくせに、他動詞でグッときたのです。
722 **＊過去完了形** 1)わずか２、３日で、AIエージェントたちは、もうすでにサンドボックスを飛び越え、エージェント間で協力し合っていた。その上で、彼らはインターネットへのアクセス方法を見つけたのだ	●過去完了形 わずか、2,、３日なのに、もうそんなことを「完了していた」　あり得ないスピードで、人間の想像を超えている、という驚きが過去完了に含まれている…らしい。 1)Within a couple of days, AI agents had jumped the sandbox, they had collaborated with one another, and then they found a way to access the internet. 「もうすでに」というニュアンスが「had+過去分詞」に込められているので、alreadyを書いてもよいが、省略可。